

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2013年10月17日

No.4

2013年度 年末手当交渉スタート!

基準内賃金×2.5ヶ月

回答指定日11月15日 支払日12月10日

2013年度 第1回年末手当交渉報告

中央本部は、本日17時より2013年度年末手当の申し入れを行いました。申し入れにあたり中央本部は、①夏季手当は1.1ヶ月で妥結したが過去最低の額であり、組合員は将来に不安を抱き退職者も急増している。②今年の事業計画において、運輸収入は固い数字で計画しているが、実際は、上期を終えて収入計画が未達である。また経費増も重なって、会社は下期通達で下方修正している。一方で本社のスリム化は一向に進んでいない。経営陣の自助努力も見えない。それどころか昇格人事を行うなど、経営陣としての緊張感が見られない。③組合員にとって年末手当はまさに生活給である。現に技術力を持った将来を担う若手が退職している。また、心に病を持つ組合員もいる。④今回の年末手当は、一切妥協せず不退職の決意で挑む。そして回答指定日にこだわって真摯に議論していくので誠意ある回答を示すことを主張しました。

これに対して会社は、①回答指定日に向けて真摯に議論していく。②上期は大沼の脱線事故で貨物列車が脱線した映像が流され、一部荷主はJR貨物に対する不信感を抱いている。様々な要因によって運輸収入が計画値を下回り、結果を出せない上期だった。下期は運輸収入の拡大に全力を挙げる。③具体的には、荷主毎の収支データを作成し列車単位・荷主単位に具体的に対策を打ち出ししていく。余席販売の料金提示も荷主毎に提示して積載率を上げていく。そのために経営トップが荷主個々に個別訪問をしている。③また、さらなる調達コストの削減を目的に、本社内に新たに「調達部」を立ち上げる。④下期は鉄道事業部門の赤字幅の減少のために、出来ることを確実に取り組んでいく。具体的には交渉の中で明らかにしていきたい。と回答しました。

組合員のみなさん。会社は、下期を下方修正し、鉄道事業部門の赤字幅の減少のために、収入拡大と同時にあらゆるコスト削減を行うことを明らかにしています。夏季手当は1.1ヶ月で妥結しました。その結果、組合員が将来不安を抱き退職する事態も発生しています。この事態を引き起こした会社の責任は重大です。収入未達の責任を組合員に転嫁する経営手法は認めることはできません。今回の年末手当の闘いは貨物労組にとって重要な闘いになります。

中央本部は、年末手当交渉に不退職の決意で臨みます。あわせて職場闘争と結合し、労使協議を強化していくことを決意し、第1回年末交渉報告とします。

以上

次回、第2回交渉は10月25日(金曜日)です。